

## 第2期武蔵野市環境啓発施設運営会議（第7回）議事要録

日 時 令和5年2月1日（水）開会 午後6時 閉会 午後8時  
場 所 むさしのエコ re ゴート及びオンライン  
参 加 者 委員 10名、事務局 8名  
小澤委員長、鈴木副委員長、光田委員、幕田委員、中西委員、村井委員、  
新保委員、野村委員、奥野委員、大塚委員

### 1 議事

令和5年度事業計画について

### 2 報告事項

- (1) 五市共同事業実施報告
- (2) 気候市民会議実施報告
- (3) エコ re ゴートワークショップ（冬版）実施報告
- (4) 第15回むさしの環境フェスタの実施について
- (5) 第2回むさしのエコ・チャレンジの実施について
- (6) 環境啓発施設視察報告

### 3 その他

#### 委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
1. 令和5年度事業計画について	
事務局	<p>資料1について説明。</p> <p>むさしのエコ re ゴートはワクチン接種会場となっていたため、今までプラットホームが使えなかった。次年度からは意図した内容で事業を組んでいく。</p> <p>会議運営について、コロナのため書面やオンラインで開催してきたが、環境フェスタの今後の形なども含めて運営会議や連携会議でいま一度ご意見を伺い、年度が変わった時点で形にしていきたい。</p> <p>啓発事業の補助金事業は、応募・審査を経て環境市民団体などへの補助金とサポートを行う事業で2回開催する。情報発信事業には、副読本「身近な自然を見つけよう」と「地球温暖化防止」2冊の改訂が完成するので、夏休み前に増刷して配布する。こどもエコクラブ事業は、以前は環境省、今は日本環境協会の事業で全国の事</p>

務局が集約していたが、むさしのエコ re ゴートで集約し、活動する子たちとダイレクトなコミュニケーションをとれるようにしたい。連続講座は、環境の学校、Green プロジェクト、PR プロジェクトの 3 本であるが、次年度は一部を組み替え、Green プロジェクトは環境の学校に組み入れて、個別講座、カフェトーク、サポーター養成講座の 3 つに分化させて市民の方に関わっていただく事業とする。緑・菜園などに関する講座、武蔵野の水にまつわる講座などもこの中に組み込んでテーマ設定をする。PR プロジェクトは、高校生・大学生のサポートという、色合いの違うものなので今までどおりとする。

イベント講座について、環境フェスタは 12 回目までは青空市と同時開催されていたが、青空市はリニューアルして先日「CO+LAB MUSASHINO (コラボむさしの)」という形で開催された。次年度はこの青空市からの流れの集客がない中で、環境フェスタをどう開催するかが課題である。環境展は、季節的な事柄や、特に温暖化防止に関するような事柄がここ数年の流れで、次年度も夏に向けて連続してやっていきたい。緑のカーテン事業も少しアレンジをしながら進めたい。むさしのエコ・チャレンジは、これまで走ってきたそれぞれの事業を 3 月の年度末を終点として集合させる意図で、今年度の第 2 回を 3 月 4 日、5 日に行う。次年度第 3 回は、さらに周知し、いろいろな関わりを増やして進めていきたい。

施設体験事業では、小学校の学習のカリキュラムのタイミングに合わせ、施設見学の要望を可能な限り受け入れて対応する。SDGs ゲームは環境と経済と社会のバランスをどう取っていくのかを考えられるメニューなので、環境の学校の個別講座やカフェトークと合体して進めていけるとよい。自然体験事業は、情報発信事業で制作した「身近な自然を探してみよう」という冊子を活用し、「武蔵野自然塾」さんにサポートをしていただいて、夏休みの身近な生き物探し等を継続したい。ものづくり工房は、進め方についての職員研修行い、ワークショップのお勧め期間をつくっていきたくと考えている。体験ワークショップは非常に人気であるが、環境啓発施設の本来の意図にはまだ届かないので、エコ re ゴート展示で、テーマ内容、考え方等をセットしていきたい。

連携事業では、立ち上がり時より予定されながらコロナにより実現していなかった、クリーンセンターとエコ re ゴートの一体的活用を調整中で、夏秋冬には具体化していきたい。サポーター事業で

	<p>は、講座参加者に残って、事業を手伝っていただくということが起こり始めているので来年度も進めていきたい。</p>
委員	<p>環境の学校と Green プロジェクトが一緒になるのは、環境をより深く学ぶという意味ではすごくいい機会だと思うが、知らない人が多く、参加人員も多くはないイメージがある。</p> <p>気候市民会議でもやっているように、公募の人はまた公募で、一方で無作為抽出でも発出されてはどうか。私も水の学校を以前受講したが、もともとは無作為抽出だった。せっかくの機会なので、もうちょっと広めにやられたらと思う。</p>
事務局	<p>参加者には、すごくいい講座なのに、もっといろいろな人にも知らせてもらいたいというご意見をたくさんいただいている。どう周知するかが課題。</p> <p>役所では、連続講座とすると一つの事業になって1回しか市報に載せられないので、ばらして毎月入れたほうがいい。ワークショップの直前に SNS を投稿して当日来ていただく流れが、仕組みとして回り始めている。いろいろ組み合わせて、いろいろな方々にご案内が届くような形にしていきたい。</p>
副委員長	<p>事業計画は、かなりリジットに表ができていて、これでフィックスという感じになっている。今まではさまざまな制約があったが、攻めの姿勢に入るべきかと思う。</p> <p>具体的には、SDGs の概念は、ゲームという仮想体験ではなく生活の中でどう関わっているか。最近は何の企業も、特に大企業は SDGs 担当、その専門部署を持っている。そういうところにエコ re ゾートの存在をこちらからアピールして、「ここをどう使いますか」とリサーチし、「だったら、うちの会社の SDGs を PR させてくれないか」というように、自分たちの能力だけではなくて、外の能力や資金を使って、もう少し大きな魚を釣る方向に行ってはどうか。</p> <p>今日の事業計画について、今までの継続は力だけれど、エコ re ゾートができて初めてこういうビックプロジェクト、あるいはアトラクティブなものが生まれたんだとアピールするようなプログラムを最低1年に1個やるべきだと思う。持続はこれまでの活動経験がある人に任せて、事務局は新しいプログラムを開拓するところに力を注いでほしい。</p>
委員長	<p>前にあった連携会議のメンバーから、「どうして開かれないのか」という声がちらほら聞こえてきている。ぜひ副委員長の声も受けとめて対応していただければと思う。</p>

委員	<p>最近の印象として、子どもが根付いているなど感じる。クリーンセンターの管理棟に子どもがいたり、階段に結構座っている子がいたり、小学校の見学で来ているという馴染み方もあると思う。</p> <p>連続講座も、全部出られない、土日がふさがると出られない等、それで人が集まらないというのがあるのか、状況を話していただきたい。</p>
事務局	<p>この一覧は、どのタイミングにどうすれば事業としてうまくストーリーができるのかを作りながら考えている。そのために作っている側面はある。</p> <p>例えば、環境の学校は、サポーターになっていただく方々と一緒にいただくためにやっているので、環境の学校の方向けにだけ広報をしていたところがあった。そのことを目指すのであれば、例えば、ものづくり工房でたくさんの子どもを連れた親御さん向けに「今度こんなのがありますから、いかがですか」と周知する。そこをやり切れていなかったと思う。</p> <p>環境の学校などの講座の広報については、事業の中の連携でつなげていくことはありだと思っている。</p>
委員長	<p>子どもたちが工作に使えるような毛糸巻きなどを、スタッフさんが丁寧に壁にそろえていってくださっていることに一番感心した。また映像のソフトで自分が描いた魚が海の中で泳ぎだす展示では、その周辺にプラスチックごみの問題が展示されていて、すごく配慮されている。また、1階で勉強している方々、2階を活用されている方もいる。そこを踏まえてお話をなさると、もう少しこのスタッフの方たちが頑張っている姿も表現できると思う。</p>
事務局	<p>今、スタッフでいろいろな施設に見学に行かせてもらっているが、いいなと思うところと、数をこなせているところは画一化されてきている感覚を受ける。そういうものがないところは、相手先に合わせていろいろなものを作り、新しいメニューがはまっていくだけの力量と事例があるように感じた。</p> <p>ある程度のことをやって市民の方に体験いただきながら、もっとブラッシュアップしたり、変容させたり、新しいネットワークを入れ込みながら新しいものを作ることを両立でしなければいけない。どちらかに偏り過ぎるのはバランスを欠くことになる。「これ、体験できるのね」と期待していただいているものは期待に応えつつ、新しいものを試行錯誤で生み出していくことを両方していきたい。</p>

	<p>副委員長からもお話があった、事業者との連携が進む部分も出てきて、吉祥寺の丸井さんとご一緒する機会が増えている。環境の学校の講師に来ていただいて、事業者としての環境への考え方や取り組みについてご紹介いただいた。</p> <p>丸井さんは、吉祥寺の駅に向かうところを改装されているが、改装のカバーにエコ re ゴートのキャラクターと併せ、武蔵野市が環境の配慮を進めているというメッセージを掲出していただいている。</p> <p>また、3月のエコ・チャレンジの時期に、丸井さんでもお客様にサステナビリティを体験していただく機会を考えていて、お互いに相手側がやっていることを紹介していく機会になったらよいという話になっている。お互いに体験できるものを共有し、開発していけたらと思っているが、まずはそれぞれの来られた方に、それぞれを案内し合うということから始めていく。</p> <p>新しいことを進めようとする時に、一緒にやることによって従来とは違って、来館される市民の方々にとって身近なところにメニューが出来上がってくるので、その点しっかり時間をつくって対応できるよう進めていきたい。</p>
委員	<p>社内の資料のために、事業者の方が環境の学校に出ているのを写真に撮ってPRしたことがあった。当時の方に「今、SDGsとか環境を考えなかったら、とても企業としてやっていけない」と言われた。副委員長がおっしゃるように、企業と一緒にやるのは、問題はあるかもしれないが、すごくいいことだと思う。考え方が広がる。</p> <p>私どもは夏の環境フェスタ in SUMMERの時に水の学校で「つまらん管」という実験で、「下水道に流していけないものは、ティッシュペーパーとトイレットペーパーでどれですか」というのをやった。子どもが正解すると親御さんが喜ぶ。親御さんが一緒に来てもらうと、すごく広がる。拡散するし、小学生は「これを自由研究のテーマに選ぼうかな」となる。</p> <p>費用対効果を考えると、ものすごくいい。だから、企業と一緒にやること、家族で一緒に来てもらうことはいいと思った。</p>
副委員長	<p>今の発言で、すごい勇気をもらった。</p> <p>視察へ行くと、指定管理になっているところと直営でやっているところがある。今は直営。議員からエコ re ゴートはどのぐらい活性化しているのかと聞かれる。停滞しちゃっていると、指定管理にしたほうがいいんじゃないか、直営が問題なんじゃないかと攻撃</p>

	<p>を受ける可能性がある。その危機感を持ってもらいたいことと、勇気を持っていろいろ外へ打って出ると。</p> <p>職員研修を活性化させる案が今出ている。職員を外に出そうと。これまでの計画案は、全部自分でお膳立てして、用意して、結果を形にして締めくくるような、起承転結のパッケージを気にし過ぎていると思う。もっとフリーでいい。やってみたけれど失敗しちゃったでもいい。チャレンジブルな姿勢が欲しい。小さくまとまってしまっている。</p> <p>勇気と元気を持って、いろんな自分の考えていることを、通るか通らないかわからないけれどやってみるみたいな空気が欲しい。</p>
委員長	<p>ほかの自治体で、指定管理者にしてすごく停滞しているのを見てきている。行政の方とスタッフさんとで活性化していってもらうところに期待をしているので、「勇気」と「元気」と「しなやかに」やっていっていただければありがたい。</p> <p>夏の工作の時に、横河電機さんのものも展示されていた。事業者との連携をもっとアピールしてもいい。今の企業では研修がすごく増えている。庁内でも若手を育てていく。</p> <p>日本人は、安全性心理というのか、否定的なことや失敗したことを言うてはいけないという空気感がすごく強い。子どもたちの世界では、同調圧力が強い。こんなこと言っちゃいけないというのがあり過ぎるので、お互いの意見、失敗したことを言い合える場にしていくことが大事だと思っている。皆さんもぜひ応援していただきたい。</p>
委員	<p>事業の目的とゴールが、この事業計画だけでは伝わり切れていない。それぞれのイベント企画等が、どういう目的で、どこを目指しているのかが見えないので、それぞれの企画の前に、まず令和5年度は、どういうことを目指すのか、どういうところに着地したいのかをお聞かせいただくと意見も出やすい。</p> <p>西の端の地区に住んでいるのでエコ re ゾートは遠く、直通のバスもないのでよほどのことがない限り行かない。箱という場所の認知度も大切であるが、エコ re ゾートの中での活動に特化するのではなく、市の中へ出ていって各地区で発信していくことも有効ではないか。</p>
委員長	<p>一覧表で説明する形になってしまっているが、実際はいろいろ出て行って、コロナ禍で大変な思いをしながらやっている。その努力が伝わるような表現をお願いしたい。</p>

委員	啓発事業では、今 PR プロジェクトの SNS 発信を高校・大学等でやっていただくと、広がりは大きくなると思う。情報発信の範囲は決めておき、発信してもらうことで、PR 事業を活性化させていただきたい。
委員	<p>大学でも、学生団体の環境チームがあるので、SNS で流せば拡散する。いろいろな広報の方法があると思う。</p> <p>情報源は多様化している。紙媒体を削ってしまうと狭くなるので、紙もなくしてはいけなし、オンラインも多様に発信していくということが今は大事だと言われたことがある。そこも考えていかないといけないかと思う。</p>
委員	ものづくり工房でも、ワークショップの期間などを設けて、できることを増やしていくという提案は素晴らしい。幼稚園・保育園、もしくは学童の先生を、エコ re ゾートに招いてワークショップの研修と一緒に取り込むなど、まず子どもに関わる大人たちがエコ re ゾートの目的や素材の使い方などを理解し、そのあと子どもたちを連れてエコ re ゾートに遊びに来る、見学に来るようなプランを組めるといいのではないか。2年間、遠足等を控えてきた保育園・幼稚園も再開しているの、市内で安心して出かけられる場所があるのは心強いと思う。
委員長	光田委員の話も含め、武蔵野市には成蹊大学以外にも幾つか大学があり、勉強に来たり、意見を言っていた高校生もいたので、発信以外でも、そういう方たちの力も借りてやっていただくというご意見だったと思う。そういう方たちにもワークショップを体験していただいたり、相乗効果を生むように、エコ re ゾートを活用・運用してほしいという皆さんの思いだと思う。
2. 報告事項	
事務局	<p>資料2、3、4、5、6、7について説明。</p> <p>五市共同事業は中央線に隣接する5市で行っている事業。今年度は武蔵野市が幹事市で、環境をテーマに置いている。1段階目は各市で各市にまつわる環境の謎解きを行い、2段階目にエコ re ゾートに来ていただく。第1段階では場はつくられるが、ほとんどをLINEでやりとりし、クイズに答え、情報を得、申し込みをするものになっている。会場企画のエコ re ゾートでも、中のプロセスを経っていくのもスマホでたどっていく形で行った。チャレンジングで、若干ハードルが高くなってしまった部分もあるが、五市と一緒に環境をテーマに催しができ、エコ re ゾートに来てもらう機会ができ</p>

	<p>た。またその中で、エコ re ゴートの壁面を使ってプロジェクションマッピングを行った。</p> <p>気候市民会議は、昨年7月から11月まで5回の講座を経て、今、実施の記録をまとめている段階。気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）を作成していく予定になっている。</p> <p>エコ re ゴートワークショップの実施については、報告をご覧いただきたい。</p> <p>むさしの環境フェスタとむさしのエコ・チャレンジは、3月4日5日に、エコ re ゴートで発表会と環境フェスタ、ワークショップなどが開催される。これまでのさまざまな事業の一番最後を、この2日間にまとめて体験をしていただき、参加者が交流をする機会とする。「発表会」のオープニングでゲストの講演会は、吉祥寺在住のイラストレーターのキン・シオタニさんにお越しいただく。また委員長にこの発表会の講評をお願いしている。</p>
副委員	<p>事業運営側は、来た人に教えるとか、伝えるとか、クイズに答えてもらうとか何か体験して帰ってもらおうとする。教育は自分で調べて自分で考えるのが本質だと思うので、答えを用意しないでやるプログラムがいいと思う。武蔵野市の未来の環境等について、子どもたち調べて考えて、作文コンクールや、エコ re ゴートでプレゼン・発表する機会をつくれれば、自然と家族もエコ re ゴートに来て体験できる。能動的なプログラムにぜひ変えてほしい。</p> <p>丸井は、ユーグレナというミドリムシの会社と業務提携、資本提携しているが、ミドリムシからはCO2フリーの燃料がつけられている。関連内容を展示しても面白いと思う。</p> <p>今年東京都が出した「緑の基本戦略」は、東京都内の環境を地域ごとに歴史、生物多様性、地形地質、衣食住の生活に至るまでを網羅しているので、あるものをうまく利用して市民に伝えるのもいいと思う。</p>
委員長	<p>気候市民会議の記事で、「満足できなかった」点として、グループ討議、会議の運営で、どういう成果を得たいのか、政策に生かそうとしているのかがはっきりしていなかったのが残念など意見が挙がっている。既成の枠組みにはまると、なかなか行政は動けない。異常気象・温暖化の問題に対しても具体的にしなやかに、多様な意見も反映しながらやっていただきたい。</p>

委員	<p>エコ・チャレンジというのがある。「A 発表会」の「取り組み内容の発表」で、こどもエコクラブというのと緑のカーテンレポーターの報告で、去年は子どものがすごく立派だった。まさにアクティブで、小学生が自分で調べ自ら発表していて、鈴木先生がおっしゃったものとまさに合致している。</p> <p>質問として、資料の5、エコ re ゴートワークショップの「参加人数」の差が大きい。何かその理由・背景はあるのか。</p>
事務局	<p>ワークショップ（冬版）の参加者のばらつきについて、それぞれのプログラムの運営上、その活動が可能な人数を募集人員にしたため上限になってしまい、結果人数が少なく見えたところがあった。</p>
委員長	<p>エコチャレンジの発表会はとてもいい発表だった。緑のカーテンの調査では、科学的根拠が必要なのでデータお送りした。根拠をちゃんとわかる必要がある。科学的な根拠をお子さんたちにもぜひやってほしいと思う。</p> <p>クリーンセンターでも、子どもたちは壁新聞を作り、ポスターを発表している。子どもたちの意識として、サミットでも発表できたらいい。発表できる場所はたくさんあるので、3月に発表してくれる人が増えるとよい。副委員長がおっしゃるような学び、個別最適な学びにつながるようにアプローチできるといいと思う。</p>
事務局	<p>資料8について説明。</p> <p>職員による環境啓発施設の視察は、今後の展開の仕方、事業の実施、その方法等についてあらためて検討する必要があるという認識のもと、他の施設を参考にさせていただき目的で実施した。</p> <p>視察先は3カ所で、エコ re ゴートが開館の前から参考にした「港区エコプラザ」、開設から半年で10万人を超す来場者の方がある「エコルとごし」、エコリーダーやサポーターの取り組みを活発に行っている「えこつくる江東」。講座、ワークショップ、展示等の企画実施、ホームページやSNS 情報発信などによる情報の発信、環境団体との連携した取り組みや、体制の課題、ボランティア・サポーターの養成、施設や事業の評価について、スタッフの方々の様子をじかにお話を聞くことによって、非常に刺激を受けた。</p> <p>他に「板橋区立エコポリスセンター」、新宿区の環境学習情報センターの「エコギャラリー新宿」も視察したが、武蔵野市、エコ re ゴートの特性に合った形、事業の実施、向かうべき先とを見定めて進めていきたい。</p>
委員長	<p>この板橋区のエコポリスセンターの指定管理者の審査をやって</p>

	<p>いる。本当に出始めた頃のもので、場所が市役所とも区役所とも離れている。江東区のほうは、高齢者の方が多いので、慎重を期してサポーターを中止していると思う。ぜひ学ぶべきところは学んで取り入れていただければありがたい。</p>
<p>3. その他</p>	
事務局	<p>運営会議の委員による環境啓発施設の視察ができないかと考えている。日程調整をさせていただいて、1カ所でもご参考に足を運んで見ていただきたいと思っている。</p> <p>案としては、品川区「エコルとごし」。指定管理の施設だが、公共施設として初の ZEB 認証取得の特徴と、ソフトの面での工夫、10万人の来場等の特徴がある。ご都合をまずメールでご照会させていただき、それを受けて候補を挙げて施設側のほうにお問い合わせ、また委員の皆さま方にご連絡をする。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>